

広報

かまいし

青々とした芝のスタジアムで交流

第3回釜石市小学校対抗タグラグビー大会



ラグビーワールドカップ開催の熱気が残る釜石鶴住居復興スタジアムで、小学生のタグラグビー大会が開かれました。タグラグビーは、危険度の高いタックルの代わりに腰に下げたタグを取るゲームで、誰でも楽しめます。市内の小中学校を中心に20チーム約130人が出場。1チーム5人が4ブロックに分かれ予選を戦いました。決勝は家族や観客の声援を受ける中、鶴住居ファイターズと小佐野タイガースが熱戦を繰り広げ、6対5で鶴住居が優勝しました。大会はラグビーワールドカップ開催の機運醸成を図るため、釜石東ロータリークラブが主催し始まったもので、今回は東京オリンピック・パラリンピックの「復興ありがとうホストタウン事業」とも連携。オーストラリアから7人、小田原市（神奈川県）から9人の小学生も参加し、ワールドカップ会場の青々とした芝の感触を楽しみながらラグビーを通じて絆を育みました。[11月17日／釜石鶴住居復興スタジアム]



もくじ

- ②市勢功労者表彰
- ③台風第19号被災者支援、まちづくりセミナーなど
- ④2019年の釜石を振り返る
- ⑥市職員募集、水道凍結防止など
- ⑦鶴住居・両石財産区議会など
- ⑧釜石大槌地区行政事務組合決算など
- ⑨インフォメーション
- ⑫まちの話題
- ⑭保健案内板
- ⑯市民のひろば
- ⑰復興情報
- ⑱年末年始休館情報

1～3年生の約50人は、釜石シーウェイブスRFCのコーチらと遊び感覚でラグビーボールに親しみました